



西諫早図書館 文学講座

万葉集を読みなおす

10/16 (水)・18 (金) 18:30~20:30 西諫早図書館にて

『万葉集』をテーマにした文学講座を開催します！

第1回は『万葉集』の移り変わり、第2回は「歌に込められた民衆の心」を読み解きます。申し込みはカウンターまたはお電話にてお願い致します。お気軽にお申し込みください。



図書館カレンダー (10月)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

毎週月曜日は休館日です。第3木曜日は、館内整理休館日です。22日は祝日により、休館日です。

西館日和

秋が深まってきました。「天高く馬肥ゆる秋」の言葉の通り、見上げると澄んだ青空や秋特有のイワシ雲が広がり、過ごしやすく本当にいい季節です。食においても美味しいものがいっぱいいて肥えるのは馬だけではなさそうです。

今月27日から11月9日まで第73回読書週間です。今年の標語は「おかえり、葉の場所^{しほ}で待ってるよ」です。しおりとは、「葉」や「枝折り」とも書きますが、その語源は、山道などで迷わないように木の枝を折って道しるべとすることを「しをる」といったことからきているようで、「枝折り」は当て字のようです。

ところで、図書館で本の返却作業をしていると、いろいろなものが本に挟まっています。ちょっと葉^{しほ}がわりにと、手近にあったものを挟まれたのだらうと思いますが、それはそれはいろいろあります。葉書、レシート、スナップ写真に、薬袋、まだほかにもいろいろなものがあります。住所や名前などが入ったものは特に注意が必要です。返却の際には今一度お確かめください。

分館長 池田

今月の展示

小説

長崎ゆかりの本
女性作家特集

実用書

爽りの秋を楽しもう！
行楽シーズン

ミニ展示

宇宙はそんなに遠くない

おすすめの1冊

『江戸の子どもの絵本 三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル!』

叢の会／編 (文学通信)



皆さんの知っている「かちかち山」では、最後にタヌキはどうなりますか？昔に作られた絵本と最近のものでは、昔話の内容が違っている、という話を耳にすることがあるかもしれません。私が子どもの頃に読んだ「かちかち山」では、おばあさんを痛めつけたタヌキが、ウサギに仇討ちされ、最後は自分の行いを反省して和解する、という結末でした。しかし、別の本や、この『江戸の子どもの絵本』に載っている話では、タヌキはおばあさんを殺して汁にし、おじいさんに食べさせます。狸汁とばかり思って食べてしまったおじいさんに、「流しの下骨見ろ、くわい、くわい、くわい」と笑う姿は、とても子どもには見せられない…とってしまうほど、怖い話になっています。このタヌキは最後、ウサギに川の中へ沈められてしまうのですが、その場所も川だったり海だったり、本によって違うようです。

この本では、約300年前の、江戸時代の子どもが読んでいた絵本を、多くの資料とともに紹介しています。桃太郎、金太郎、かちかち山など、誰もが聞いたことのある昔話ばかりなので、ぜひ一度お手にとってみてください。(M)

新刊ピックアップ!



10/27~11/9は読書週間です!



『図説第二次世界大戦』	太平洋戦争研究会	河出書房新社
『わたしの家系図物語(ヒストリエ)』	渡辺 宗貴	時事通信社
『どんな災害でもお金とくらしを守る』	清水 香	小学館
『数学にとって証明とはなにか』	瀬山 士郎	講談社
『僕らはそれに抵抗できない』	アダム・オルター	ダイヤモンド社
『庭と住まいの照明手帖』	花井 架津彦	エクスナレッジ
『トコトンやさしい電車の本』	青田 孝	日刊工業新聞社
『省スペースで作れるラクうま漬け物』	石澤 清美	主婦の友社
『戦国忍びの作法』	山田 雄司／監修	G.B.
『たそがれダンサーズ』	桂 聖美	中央公論新社
『盲剣楼奇譚』	島田 荘司	文藝春秋
『罪と祈り』	貫井 徳郎	実業之日本社



この他にもたくさんあります！ 貸出中の本には予約ができます。ご利用ください。